

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成22年9月9日(2010.9.9)

【公表番号】特表2010-501208(P2010-501208A)

【公表日】平成22年1月21日(2010.1.21)

【年通号数】公開・登録公報2010-003

【出願番号】特願2009-524706(P2009-524706)

【国際特許分類】

A 6 1 F 2/82 (2006.01)

A 6 1 F 2/06 (2006.01)

【FI】

A 6 1 M 29/02

A 6 1 F 2/06

【手続補正書】

【提出日】平成22年7月20日(2010.7.20)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0020】

図2に示されるように、開窓18および20からステントグラフト10の近端28に向かって上方に延在する1対の管24および26があり、これらの管24および26は単一のより大きい管30に開口し、これはステントグラフト10の内腔32に開口する。より大きい管30は縫合34によって管状体12に接続され、ジグザグの自己拡張型ステント36がより大きい胴体の外側の周りに展開されて、一旦人体または動物体内に展開され放されると開存性を与えるか維持する。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0028

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0028】

次に、本発明に係るステントグラフトの代替実施例を示す図5から図8を参照して、ステントグラフト40が、テーパ状の中央領域44を含む管状体42を有することが示されるであろう。管状体はステント46によって支持される。好ましくは、これらのステントは自己拡張型GianturcoジグザグZステントであるが、他の形態のステントが含まれるか用いられてもよい。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0029

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0029】

テーパ領域44には、自身の周縁部の周りの弾性ニチノールワイヤ52によって規定される少なくとも2つの開窓48および50がある。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0030

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0030】

図6および図7に示されるように、開窓48および50からステントグラフト40の近端68に向かって上方に延在する1対の管54および55があり、これらの管54および55は単一のより大きい管60に開口し、これはステントグラフト40の内腔62に開口する。より大きい管60は縫合64によって管状体42に接続される。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0031

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0031】

開示された第1の実施例と同様に、本実施例も2本の管54、55よりも多い管を有してもよい。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0038

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0038】

図9は、本発明に係るステントグラフトの別の実施例を示す。本実施例では、ステントグラフト80は、ステントによって支持される管状体82を有する。本実施例では、少なくとも3つの開窓84、86および88、ならびにそれぞれ開窓84、86および88から延在する3本の管90、92および94がある。本実施例では、開窓84、86および88は実質的に三角形のパターンに配置される。